きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん

12月園だより

きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん

２０２０年度 年主題〈ことばが満たされる〉

0･1･2歳児１２月主題「うれしいね」

月のねがい

◎クリスマスを喜び嬉しい気持ちを感じ合う
◎寒い冬を健康に過ごす
◎クリスマスの雰囲気を楽しみ、絵本や歌に親しむ

3･4･5歳児１２月主題 「喜びにあふれて」

月のねがい

◎クリスマスの意味を知り、愛されていることの喜びの中礼拝する
◎クリスマスの喜びを分かち合うために自分たちにできることを話し合う
◎寒さの中でも体を動かすことを仲間と一緒に楽しむ
◎喜んで賛美したり踊ったりして心を弾ませる
◎興味あることにじっくりと取り組み、うれしさを感じる

今月の聖句 「今日ダビデのまちで、あなたがたのために救い主がお生まれになりました」

ルカ2:11

今年もクリスマスを迎えようとしています。コロナ禍の中、どのようなクリスマスになるでしょうか。どのようにクリスマスを迎えられるでしょうか。

イエスさまがお生まれになった時代は、コロナのような疫病パンデミックはなかったものの、絶対的権力者が支配する世の中で、人のいのちも尊厳も今ほどに尊ばれない時代でした。男の子の誕生を望む家庭に女の子が生まれたら捨てても罪に問われない、又、そのように捨てられた女の子を拾い集め将来の神殿娼婦に育てる業者まで存在するような世界が当時のローマ帝国社会でした。そんな中、ユダヤ社会の道徳観は飛び抜けて優れていたと言われています。けれども、そのユダヤ社会の中でさえ差別があり、多くの人々が苦しんでいました。イエスさまは、そのような矛盾だらけの世界に神の子として誕生してくださいました。

キリスト教の最大の特徴がそこにあります。神であるお方が人となってくださった。聖書の描く神は下に降ってくださるお方なのです。その他の宗教は全て上を目指します。人が神を目指します。けれども、聖書が描く神は全くその逆の道を歩みます。神が人となってくださった。そして、人が経験する痛みや苦しみに寄り添い、その弱さの中から見えてくる強さを明らかにしてくださいます。クリスマスを迎える時に、その真理を思わずにはおれません。同時に、このコロナ禍にあっても、イエス・キリストは私たちと共にいて、私たちを励まし、慰め、力付けて下さるお方なのです。メリー・クリスマス！

協力牧師　池田基宣

１２月の行事予定

2 日（水）	持久走予備日
4 日（金）	クリスマス会予行
12 日（土）	クリスマス会　弁当日
16 日（水）	もちつき大会
18 日（金）	終園式（1 号午前保育）
19 日（土）	誕生会（めぐみ組 9~12 月生まれ）

１月の行事予定

8 日（金）	始園式（１号午前保育）
13 日（水）	役員会
15 日（金）	誕生会（2 才以上児 1 月生）
16 日（土）	職員研修
27 日（水）	おゆうぎ会予行　弁当の日

１号認定児
入園申込み受付開始
１２月１日（火）
ご紹介宜しくお願いします！

言葉かけはシンプルに!

Aちゃんのお母さんのお話です。「うちの子、呼んでも返事をしないんです。あまりにもしないかいら、『なんで？聞こえないの？』と聞いたら、『お母さん、何回も同じこと言うから聞こえないようにしてる！』と言われて、気付かずに言い過ぎていたのかと反省しました。」

そう言えば、園でも「そうそう！言い過ぎちゃうよね…」と、みんな思い当たる節があります。子どもたちに「お部屋に入るよ！」「片付けだよ！」などなど、何度も同じことを言ってしまいます。そしてなかなか動けない子たちに、「ほらほら、急いで！」「もう片付けでしょ！」と、ついつい口うるさくなってしまっていたことに気づきました！子どもたちもAちゃんみたいな気持ちだったのね…と反省です。職員間で話し合って、「言い過ぎないようにする」「同じことは3回まで」など、声掛けの約束事を決めることにしました。そして子どもたちにも約束事を提案し、子どもたちも了解してくれ、声掛け大作戦開始！！先生たちがつい言いそうになる言葉をゴクン！と飲み込むことを意識しだすと、子どもたちも友だち同士で「もう2回目だ！早く帰ろう！」など、以前より保育者の声を意識して聞いてくれている？？…ような気がします(笑)！　ついつい言ってしまう一言、二言、子どもにとっては余計な言葉なのかもしれませんね。改めて感じる出来事でした。

さて、子どもたちは12月にあるクリスマス会に向けて、それぞれのおけいこが始まっています。いつもとは違う形になっていますが、子どもたちや保護者の方々みんなで、クリスマスの意味を知り、お祝いできたらな…と思います。だんだん寒くなりますが、残り少ない2学期を元気に過ごせるよう、体調を崩さないように園でもお家でも気を付けていきましょうね！！ どうぞサポートよろしくお願いします。　松元

まことのささげもの

早いもので令和二（二〇二〇）年もあと一月となりました。世界中が、コロナ禍一色に染められた年であったことは異論の無いところかと思います。各ご家庭での出来事も様々に思い起こされることでしょう。一日も早いコロナ感染の収束と経済の回復を願いつつ新年を迎えたいと思います。

本園にとってクリスマスと言えば、恒例の「クリスマス会」です。最近は、イエス・キリストの降誕劇を中心に表現する形になっていますが、子どもの数が多かった平成の初めまでは、年長一クラスでする聖劇と、もう一クラスが「まことのささげもの」という劇を披露していました。絵本などでは「鐘はなぜ鳴ったか」「クリスマスのかね「ふしぎなかね」で知られています。

ある町に、大きな教会があり、高い高い塔に“クリスマスの鐘”と呼ばれている鐘がありました。この鐘は、すばらしい“ささげもの”をすると鳴る（神様が鳴らしてくださる）のだそうですが、長い間、誰もその音色を聞いた者がいません。あるクリスマス・イブの日、今年こそはと多くの人たちが“ささげもの”を持って来ました。お金持ちは、すばらしい宝石や黄金をささげ、小説家は自分の書いた本を、王様は自分の冠をとってささげました。でも、クリスマスの鐘は鳴りませんでした。みんなが“今年も鳴らなかった”とあきらめかけていたとき、かすかに、そして次第にはっきりと、高い高い塔の上から、鐘の音が響いてきました。それはそれは美しい、うっとりとするような音色でした。一体誰がこの鐘を鳴らしたのでしょうか。人々は一斉に祭壇の方を見ました。そこには一人の小さな男の子が、一枚の銀貨をささげ、祈っていました。

クリスマスの鐘は、なぜ鳴ったのでしょうか。実は、男の子には兄がいて、町から離れた貧しい村から、二人で教会にやって来たのです。でも、町の門の所に来たとき、そこに倒れている女の人を発見します。兄は、倒れている人を見捨ててはおけないと、自分が働いて貯めたなけなしの銀貨一枚を弟に渡し、自分の代わりにこの銀貨を誰にも見られないようにそっと祭壇にささげるよう言います。男の子がささげた銀貨は、この銀貨だったのです。クリスマスの鐘はなぜ鳴ったのか。もうお分かりでしょう。神様は、単に高価なささげものを喜ぶお方ではありません。真心のこもったささげものを喜んでくださるのです。また、神様は隠れたことを見て報いてくださるお方ですから、男の子が誰にも見られないように、そっとささげたささげものを、神様は喜ばれたのかも知れません。また、自分も行きたかったのに、倒れている人を見捨ててはおけなかった兄のやさしい行為を、神様はお喜びになったのかも知れません。イエス様のお誕生をお祝いするクリスマス。私たちも、神様に喜ばれる歩みが少しでも出来るといいですね。

クリスマスから始まったキリストに関する一連の出来ごとは、天からの有難い「ギフト」そのものです。クリスマスを通して、イエスの降誕の真の意味を共に学び、この世に生かされている驚きと喜びを分かち合い過ごしていきたいと思います。これから寒さも深まり、コロナ感染症やインフルエンザの流行が予想されます。健康に留意され、穏やかな年末年始をお過ごしになられますようお祈りいたします。

学園長

クリスマスを迎えるにあたって

クリスマスはイエス･キリストの誕生を祝う日です。約２千年前、ベツレヘムの小さな馬小屋でイエス・キリストは生まれました。イエスを通して、神様からのメッセージを私たち人間に示されました。それは、戦争や餓え、不当な搾取や抑圧に苦しんでいる人たち、自分自身の中で葛藤し悩んでいる人たちの希望の光となるためです。

私たち保育者は、キリスト教保育を目指す園として、いかなる人も希望の光を持ってこの世の中で生きていってほしいと願い、祈ります。それは見えるものではありませんが、見えないものにこそ大事なことがあることを信じて保育をし、子どもたちにもそのクリスマスのメッセージを伝えていきたいです。

☆ひとりひとり神様に命を頂いて生きていること
☆ひとりひとり大切な働きが与えられていること
☆いい事も悪い事も選択できる自由が与えられていること

その自由の中、自分で考え、自分で選択し、自分で実行する時に、自己実現がなされます。その一人一人が選択した行いが神様に喜ばれる時、心も体も喜びに満たされ、希望の光として受け入れられるのです。たとえそれがほんの小さな行いだったとしてもです。

サンタクロースについて

サンタクロースの原型になったのは、４世紀初め頃のキリスト教聖職者、聖ニコラウスだと言われています。伝説によれば、ニコラウスはその相続財産を貧しく困っている人たちに分け与え、誘拐された子どもたちを助けたのだそうです。

クリスマスの絵本に”おばあさんのスープ”という絵本があります。（女子パウロ会出版）

一人暮らしのおばあさんが、雪の降るクリスマスの晩に、小さなお鍋でスープを作りました。食べようとしていた時、森からその匂いを嗅ぎつけてウサギやくま、きつね等次々に訪ねてきます。気のいいおばあさんは小さな皿にスープを分け、皆で食べたと言うお話です。皆で食べたほんの少しのスープはとても美味しく、寒さで凍えた体と心をほんのり温かくしてくれました。

クリスマスは神様が私たちに贈って下さったメッセージを思い出させてくれます。 それは、あなたも私もみんな神様に愛されているのだということ。その喜びをみんなと分かち合うとき、小さな喜びはもっと大きくなります。そしてもっと幸せになります。今年も子どもたちや保護者の方々と、クリスマスの意味を考えお祝いしていきましょう。

きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん